

光の子



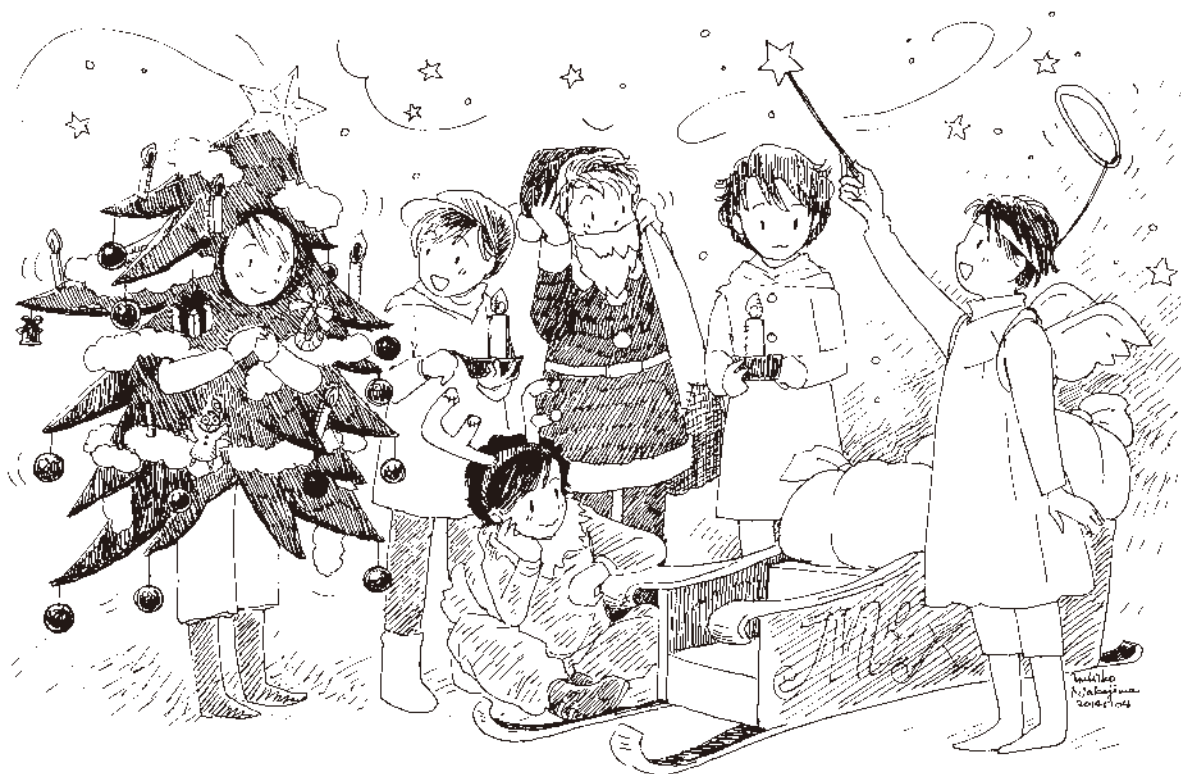
No.166 2014.12.10

●年間聖句 互いに重荷を担いなさい。(ガラテヤの信徒への手紙6章2節)

クリスマスおめでとうございます。

皆さまに豊かな祝福がありますように。

社会福祉法人 光の子どもの家



「クリスマス会」

表紙絵・中島由起子

「子守唄」

小鳥来てゐるらし木の葉揺れてをり

ほんとうは雀が好きな家山子かな

こつそりと戻つてゐたる茸取

遠くまでひびく嬰のこゑ露の秋

子守唄はるかを雁の渡りをり

母を恋ふごとく火を恋ふ夕べかな

登校の子の声高し霜日和

黛 執

(「春野」主宰)



新しい歴史の芽生えを祈りつつ

聖学院大学ボランティア・センター所長 阿部 洋治

イスラエルの神、主はこう言われる。このところからカルデア人の国へ送ったユダの補囚の民を、わたしはこの良いいちじくのように見なして、恵みを与えよう。彼らに目を留めて恵みを与え、この地に連れ戻す。彼らを建てて、倒さず、植えて、抜くことはない。(エレミヤ書24章5〜6節)

東日本大震災から3年9ヶ月。あの出来事以来、繰り返す私の心の中に思い浮んで来たことは、国家滅亡という民族の危機の只中であつて語り続けた預言者たちの言葉であります。特に、エルサレム陥落の直後にエレミヤに示されたいちじくの実が入った二つのかごの幻に、私は心を引き付けられて参りました。神は良いいちじくの入ったかごと、悪いいちじくの入ったかごをエレミヤにお示しになり、民族国家滅亡後、運よくエルサレムに残ることになった人々や同盟国エジプトへと逃れて行った人々を悪いいちじくとし、他方バビロニアに連行され捕虜となった人々を良いいちじくとすると言われるのです。そして、実際の歴史が示唆しておりますように、捕虜としての苦難を経験し、やがて50年後にエルサレムに帰還することになった人々が、民族国家再建のために大事な働きをすることになったのです。

エレミヤのこの預言と聖書の民たちのこうした歴史は、今回の大震災後の私たちに大切な示唆を与えているのではないのでしょうか。神は、バビロニアに捕虜となった

人々を用いて新しい歴史を始められたように、この日本においても被災された人々を通して私たちの中に新しい歴史を始められるのではないかと。そうだとするならば、私たちは、被災地の人々をただ単に憐れみの目で見ただけではなく、そこに生きる人々の引き続く辛く忍耐を余儀なくされる生活にもかかわらず、人々が何を考え、何を始めようとしているかに目を向け、そこから形成される新しい歴史に心を寄せて行かなければならない。これが、今、私たちに示唆されていることだと思えます。

この夏、私は、学生たちと釜石に復興支援ボランティア・スタディーツアーに同行しました。プロダラムの一つに釜石駅から盛岡まで三陸鉄道に乗り、沿岸の被災状況について関係者から詳しく説明を受けるというのがありました。その復路、バスで唐丹村の津波記憶石を見学することになりましたが、私は、その石碑の前に釘付けになってしまったのです。その石碑には、あの震災の経験から生れた「命の言葉」とも言うべき小中学生の言葉が刻まれておりました。「彼ら、彼女たちの中に新しい命が芽生えている。」私が、この石碑から離れがたく立ち竦んでしまったのは、まさにこの新しい命の芽生えに触れる思いを与えられたからでした。彼らは次のように綴っております。

多くのものを失い、とてもつらい思いをしました。だけど、そのかわりに何よりも

大切なものを得ました。「絆」です。これら先たくさんつらいことや苦しいことがあっても色々な人達との絆があればかならず乗り越えられます。そして、いつか必ず唐丹を復興させましょう。

伊藤千聖 小学6年

私は東日本大震災で多くのものを失いました。震災がある前は、学校があつて、友だちがいて、帰る家があることがあたり前でした。でも震災があつてあたり前にできることや、みんなといられることが、どんなに幸せなことなのか分かりました。これから、一日一日を大切に生きてゆきましょう。

鈴木玲緒奈 小学6年

転がってもヒカリを掴みに行く。流した涙は数知れず。だけど、溢れた笑顔は宝物。わたしたちは忘れはしない。

三浦紗姫 中学2年

津波は悪い事ばかり残した訳じゃない。精一杯生きることを教えてくれた。

三浦真依 中学2年

悲しくて前を向くことができない時は無理をせず横を向いてみてください。いつでも仲間や家族と一緒にいます。

松山祥子 中学3年

(釜石市唐丹町津波記憶石(第3号)に刻まれた子どもたちの言葉より)

になり、それが今日、10月27日まで続いているのである。

大分良くはなったが、歩くときはずみをする。最初はかなり、うつ的な気分になった。こんな状態で一生過ごすのかと思つたら、憂鬱になるのだ。最近、不整脈の治療として、カテーテルを心臓に入れてやって、心臓の筋肉の一部を焼き切るアブレーションという治療が行われており、担当医はその適応ではないかと言ひ、アブレーションを専門に行っている医師のところへ身柄を移された。

その医師は心臓の絵を示しながら、現在の病気の状況、今後の治療方針などについて、妻にも分かるように懇切丁寧に説明してくれた。彼はアブレーションの専門家であるにもかかわらず、私の場合は高齢であるから、適応ではないのではと言ひ。「私の親父だったらやりませんね」という言葉が胸に浸みした。はつきり言つてこんなに医者らしい医者を大きな病院で初めて見た。

「すべて先生にお任せしますので、よろしくお願ひします」。気持ちスーッと軽くなった。新しい不整脈の薬を服用し始めたが、



一病息災？

老健施設みゆきの丘施設長 仙道 富士郎

大学生の時だったか、あるいは大学を卒業して間もなくだったか、記憶は定かでないのだが、あるとき、心臓の動きが正常でないことに気付いた。どんなことで気付いたかと言ふと、変な話で恐縮であるが、心臓がその存在を主張していたのである。

片時も休まず、規則的に血液を全身に送り出しているが、そのことを私たちは普通意識していない。ところが、その時は、心臓が動いている様が、ドッキ、ドッキという胸の響きとして伝わってきた。一応医者のお卵であるわけで、脈をとってみると、不規則なのである。心房細動という不整脈とのお付き合いの始まりである。

その時から今日まで10回以上の心房細動発作に見舞われている。なぜ発作が起こったか、おおよその見当はつく。そのころまだ喫煙

していたのだが、酒を多く飲み、同時に煙草を30本以上吸ひ、その上寝不足するという条件が重なった時でなければこの発作は起こらなかった。しかし、こういう3条件があつても必ずしも発作が起こるわけでもなく、いわば発作発生の必要条件ではあるが、十分条件ではないことになる。

ところが、ある時からこの条件は変わってきた。禁煙はしていたし、酒もそんなに飲んでいないのに発作が起こるようになった。学長に就任してからである。加齢による変化もあるには違ひないが、学長のときは心理的なストレスがけた外れに強かつたのだと思う。と言うのも、学長の時には、この心臓発作だけでなく、メニエール症候群というものも経験し、言葉通り、天井が回つて見えた。この病気にもストレスが関係していることが分かっているのである。

しかし、これまでは、48時間以上不整脈発作が持続したことはなかった。

ところが、今回は違うのである。9月23日に発作があつて、電気ショックで一回規則正しい脈に戻つたのだが、5日後にはまた不整脈

「共育ちカンガルー日記」

(31) ありのまままで

近藤みちる

タイトルを見て、思わずメロデ
イを口ずさむ方も少なくないと思
う。そう、世界中に一大ブームを
巻き起こしたディズニ映画「ア
ナと雪の女王」の主題歌である。
我が家の優希も、今年はこの「ア
ナ雪」ブームにどっぷりとハマっ
た一人である。

五月に登校拒否でしばらく学校
を休んでいた折、気分転換になれ
ばと連れ出した映画館で、優希が
選んだ映画がこの「アナ雪」だっ
た。私たちが初めて映画館で一緒
に観た、長編アニメ映画であった。
「真実の愛は凍りついた心をも溶
かす」

ひと口に言えば、それがこの映
画のコンセプトである。ヒロイン
はアレンデル王国の二人の女王
アナとエルサだ。姉のエルサは、
生まれながらに雪と氷を操る魔法
の力を備えていた。その力は
強大で、かつ諸刃の剣ともなりう
るものであった。トロールの助言
に従い、国王と王妃は城門を固く
閉ざし、人々を遠ざけ、深窓の奥
でひっそりと女王を守り育ててい
た。ところが不幸なことに、渡航

中の事故で国王夫妻は無念の死を
遂げる。最愛の娘たちを閉ざされ
た城に残して。

冒頭に描かれる、ヒロイン達の
悲しい生い立ち。国王夫妻の我が
子を守らんとする切なる親心や、
最期の彼らの心中を思うと、身に
つまされる思いがした、

物語はここから急展開を見せる。
突然の両親の死は、姉妹に大きな
喪失感と王国の継承という重荷を
もたらした。親という絶対的な砦
を失ったエルサは、魔法の力をひ
た隠し、自らを奮い立たせて戴冠
式に臨む。だが彼女の恐れ念が
魔法の力を暴走させ、たちまち国
中が雪と氷に覆われてしまう。追
い詰められたエルサは、たつたひ
とりの雪深い山の頂に向かい、ある
決意を固める。これからは「あり
のまま」の自分で生きていこうと。
魔法の力に抗うのではなく、その
力を解き放ち、雪の女王として氷
の孤城の中で、誰も寄せつけずに
孤独な人生を送ろうと。主題歌

「ありのまま」は、エルサが王
冠を投げ捨て、雪の女王に変貌を
遂げるシーンで、エルサ自身によ

って力強く歌い上げられる。変貌
するのは出で立ちばかりではない。
顔つきまでもが一変する。生まれ
変わったかのように、自由で迷い
のない自信に満ちたエルサの眼差
し。「ありのままの自分である」
言うは易しだが実行するのは誰に
とっても容易なことではない。だ
からこそエルサの歌声は、人々の
琴線に触れ、多くの共感を集める
のだろう。

雪の女王として、孤立の道を選
んだエルサ。だが人は誰しも独り
では生きられない。孤立はさらな
る恐れを生み、それがそれが仇
となるということ、エルサは氣
づかないのである。

窮地を救ったのは、妹のアナ王
女だった。勇敢なアナは愛する姉
を救うため、エルサに向けて振り
下ろされた刃の前に、我が身をな
げうって立ちはだかった。アナの
無償の愛を受け、「愛」こそが全
ての答えだと悟ったエルサは、心
に愛を取り戻し、恐れ念から解
放される。そしてついに、魔法を
自ら制御できる術を手にするので
ある。

ディズニ映画にハッピーエン
ドはつきものだ。ラストシーンで
は、夏に戻ったアレンデル王国
の幸せな光景が広がる。開け放た
れた城門の前にエルサ女王とアナ、
そして大勢の民が集まっている。エ

ルサは雪の女王の姿のまま、魔法
を使って人々のために美しいスケ
ートリンクを造る。そしてアナに
向かってこう呟く。「もう二度と
お城の門は閉めないから」と。ス
ケートを楽しむ人々の笑顔と賑や
かな笑い声。そして幕が閉じる。

雪の女王として自分らしく生き
つつ、父から受け継いだ国を治め、
愛する者たちと共に幸せを求めて
いく道を見つけたエルサ。「あり
のまま」の自分を大切に出来る人
は、きっと「ありのまま」の相手
も大切にできるはず。そうして人
は人と共に生きてこそ、生きる意
味を持つものなのだと思はる。

さて我が家の小さなエルサ女王
はというと、その後何とか登校拒
否を乗り越え、二学期からは、ほ
ぼ皆勤賞で学校生活を楽しんでい
る。一学期と一番変わったのは、
優希が学校の中でも自分を出せる
ようになったことだ。どんな自分
を出したとしても、周りは必ず受
け入れてくれるという安心感や信
頼感が、優希の育ちを力強く支え
てくれているのだと思う。運動会
や遠足。鬼ごっこやどんぐり拾い。
お友達とさまざまな経験を積み、
たくさんの楽しい思い出を作った
二学期。早いもので、小学校で初
めて迎える冬休みはすぐそこだ。
北窓の指の落がきクリスマス

みちる

富士山と蟻

中島 睦雄

一匹の蟻がいる。これが、右に
歩いたかと思うと、急に左の方に
歩いて行く。

つまりこの蟻は、具体的な、は
っきりした目標を持っていないよ
うである。

それでも、行き当たりバッタリ

ではあるが、そ
れらの行動の中
で、小さなしあ
わせを感じてい
たのかも知れな
い。

しかし或る時
ふとしたきつか
けから、富士山
に登ってみよう
と思いついた。

ほかから見れ
ば、それは明ら
かに無謀と思え
るのだが、この
蟻は、そんな無
謀さに気付かな
い。

そして、或る
チャンスを得て、
一歩一歩、頂上に向かつて歩みを
進めたのであった。

歩き始めてみると、やはり富士
山のまわりは、今まで気づかなか
った花々や、森の木々などが、以
前の環境とは違って見えてきた。
小さな蟻も、小さいなりに、新鮮

な感動を味わっていたのであった。
そんな歩みを続けているうちに、
少し冷静になってみると、富士山
の頂上はおろか、一生涯歩き続け
てみても、ほんの数メートル位
しか進めないだろうという事が、
わかってきた。

つまり、富士山の大きさと、己
の小ささを感じ始めていたのであ
る。

そこで「上へ上へ」という考え方
は捨てよう。「富士山の麓の美し
さを見ているだけで、充分ではな
いか」と思うようになってきた。

この蟻にとっては、このあたり
が無難なわけではなからうか。そ
うしよう。
実は、この小さな蟻は、私自身
なのである。そして、秀麗な富士
山は、万葉集なのである。
以前、市の教養講座が何かで、
万葉集の講義を聞く機会を得た。
講師は、博学多識で知られるF氏
である。おっ！これは受けてみよ
うと思ひ立ち、申し込んで見たら、
受講生40人の中にいられてもらうこ
とができた。

4回の講座だったが、実に素晴
らしい講座であった。
もち論、万葉集の中の有名な歌
の幾つかは、うる覚えながら私も
知っていた。しかし、これらの知
識は余りにも断片的で、歌の前後
の関係も全くわからず、ましてや

作者それぞれのいろいろな人間関
係や歴史的背景など、チンプンカ
ンブンだったのである。

ところが、F氏の講義を受けて
みると、なるほどなるほど、へー、
そうなんか等と、新しい知識を感
動的に受け取ることができたので
ある。

翌年もまた、F氏による4回の
講座に応募してみると、幸いにも
また受け入れてもらえた。

私は、万葉集だけの特別なノー
トを作って、F氏が配布してくれ
るプリントを挟み、真面目な受講
生意識で、4回の講座を聞いた。
これは、我ながらおかしくなる
位、熱心に出席したのである。

恥ずかしながら、学生時代、こ
んなに熱心に求める気持ちで授業
に出ることは、あまりなかったの
ではなからうか。

時々サボってみたり、友達に代
返を頼んだり、そして、試験だけ
は辛うじてぐぐり抜けてきたので
あった。

それに比べて、この講座への
取り組みの姿勢は違っていた。真
面目なのである。

学校の生徒の中にも、成績は決
して良くはないが、真面目だけが
取り柄だ、というのがいるもので
ある。まさにそれが、万葉講座に
於ける私自身の姿であった。
その後、F氏を講師として、20

年も万葉集の講座が続いていると
いう会の存在を知った。そこへ、
知り合いの人から誘われて入会し
てみた。F氏は、私の高校の先輩
だし、いろいろな面で親しみや尊
敬の念を抱いていたし、前の講座
で感銘を受けていたので、誘われ
るままに、すんなりと入会できた
わけである。

そして、何回かの講義に出席し、
勉強を始めてみたのであるが、ま
わりの人たちはみんな、かなりの
万葉通のようであった。

そこで私は、万葉集に関する本
を何冊か買い込んできて、まわり
の人たちに追いつこうとした。し
かし考えてみると、そう簡単に万
葉集が解るといえるものではないと
いう事も、身にしみて感じられて
きた。

やっぱり万葉集は、譬えれば富
士山であろう。そうであれば、小
さな蟻の私は、富士山の麓のあた
りをうろちよろし、あ、きれいな
花だな、鳥が鳴いているなど、そ
の辺で満足し、頂上の方は目指さ
ない方が無難かなと、思い始めて
いる。





子どもたちのメッセージ



サンタクロースへ

今年はサンタさんにいっぱいプレゼントがもらえるからです。でも考えるとふしぎな所があって、自分の中でなんとなく答えを出して見ました。

高校生 可菜

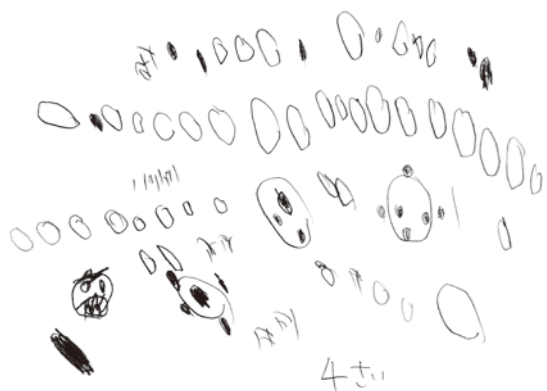
サンタさん心配です

毎年楽しみな行事の中には、クリスマスがあります。理由はプレゼントがもらえるからです。でも考えるとふしぎな所があって、自分の中でなんとなく答えを出して見ました。

一つ目は、サンタさんは本当にいるのかです。世界中にプレゼントを運ぶ白いかみの毛で白いひげのおじいさんなんて、どこにいますか。えいようドリンクとかのんでないと、半分まわった所でフラッとたおれちゃうんじゃないかな。と思うけど、サンタさんはいると信じています。今年もがんばってください。

二つ目は、クリスマスは神様の誕生日なのに、みんながなぜ楽しいことをしているのでしょうか。本当はみんながお祝いする立場なのではないか。でも考えてみると、神様はやさしいから、みんながよろこんでねと、お祝いの場をゆずってくれているのかもしれない。でも、どんな理由があっても、やっぱりクリスマスは大好きです。

小学生 楓



優しいサンタさん

私はクリスマスを楽しく過ごしたいと思います。サンタさんがプレゼントをくれるので、プレゼントを大切にしたいなと思っています。サンタさんが来てくれればの話ですけれどね。

サンタさんは優しい方だと思います

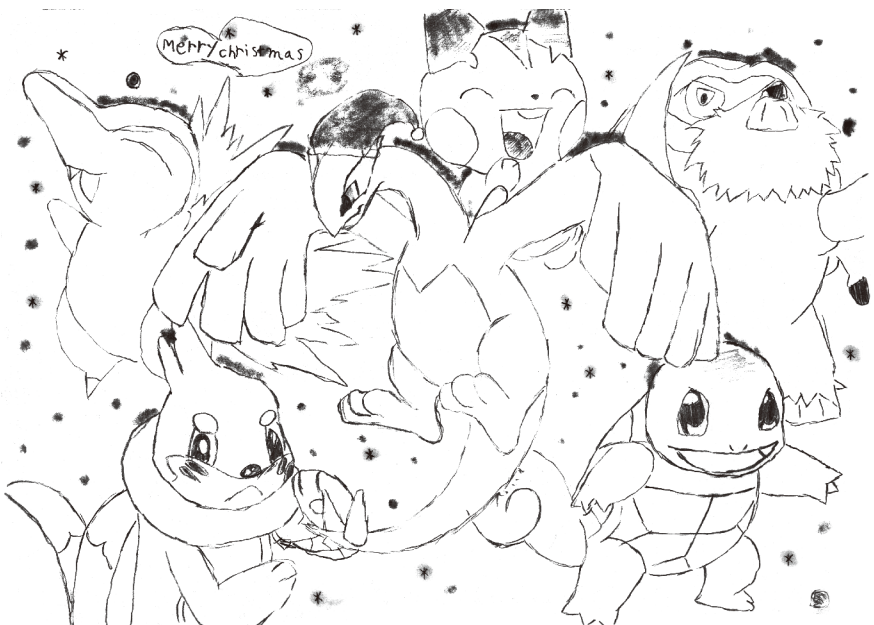


ます。サンタさんは私にとって大切な存在だと思います。サンタさんはきつといると信じています。今までもらったプレゼントも大切にしています。クリスマスは一年に一度の大切な日です。クリスマスが近づいてつれて、一日一日を大切にしていければいいなと思います。一日一

目を大切にしなければなら、楽しいクリスマスも台無しになってしまふと思います。

クリスマスには、ページェント(注・イエスキリストの降誕劇)をやります。その練習も大切にしたい、本番を成功させたいと思っています。

中学生 真琴



さんたさんへ

さんたさん、ぼぼちゃんよのふとんをください(注・ください)。子どもが4人はいれるぐらいのふとんもください。あとぼぼちゃんのがえをいっぱいください。あとドライブ(注・仮面ライダー)のべるとドライブのせんぶくら

最後のクリスマス

小さいころからずっとクリスマスはここでお祝いをしたり礼拝をしたりしてきました。中学生の時や高校生になってからは、何で12月24日も25日もここで過ごさな

小学生 エリ

やいけないんだって思っていたけれど、今年はやっぱり特別な感じがします。私はやりたい事が見つかって、そのために大学に進学します。ここでの生活も来年の3月まで。今は4月からの大学進学に向けてアルバイトを始めようかと思っています。色々なことがあったけど、自分が希望した進路に進めることは嬉しいし、ありがとうございます。クリスマスはみんなで過ごすのは今年で最後だから、今年のクリスマスは大切に過ごしたいと思います。卒園してからもたまに来ると思うけど、大学生になったらやっぱりクリスマスは友達と過ごすかな？

高校生 月莉

クリスマスは...

クリスマスは、イエスキリストの誕生日をお祝いする日です。で、みんなとお祝いしたいしよくじをたべながら、おいのりしたいと思っています。

小学生 智司

プラットフォーム

原田家日記

めっきり冬の寒い寒さになってきました。皆さまお元気でしょうか。先日子どもたちと一緒に私もインフルエンザの予防接種をしてきました。

先日、感謝の集いにはたくさんの方々が来訪してくださいました。幼稚園の先生や学校の先生、乳児院の時の担当の先生もおいでくださり、子どもたちは恥ずかしさもあつたようですが、やっぱりうれしかったようです。

さて、二期期はとも行事が多く、運動会や七五三、表現発表会、持久走大会など、一つ一つをお伝えしたいのですが書ききれません。中でも子どもたちが楽しみにしているのは、何ととってもクリスマス、特にサンタさんからのプレゼントです。

子どもたちだけでなく、大人もプレゼントをいただくのは嬉しいものです。光の子どもの家では職員同士でもプレゼントし合ったりします。贈る人のことを想って選

んでという作業は、それだけでも楽しいものです。皆さまに豊かなクリスマスが訪れますように。

岩瀬 志穂

光の中で 佐藤家

クリスマスおめでとうございませう。

高校3年生の奈保妃は、熱心に取り組んできた部活動を秋に引退し、大学進学も決まりました。

高校2年生の侑司は、高校を自主退学し働いています。休むことなく真面目に頑張っています。

高校1年生の穂乃果は、高校へ通い続けられるだろうかという私たちの心配をよそに、先生や友達に支えられながら、高校生活を頑張っています。

中学生の真咲は、部長として部活動に励み、日々厳しい練習をして、県大会に出場しました。

同じく中学生の渚。人間関係は上手ではないようですが、担任に

認められ、友達に助けられ、頑張っています。

幼稚園に通う耀司は、毎日不安そうな顔で登園しますが、笑顔で帰って来ます。表現発表会に向けて練習しているダンスを、家で上手に踊って見せてくれます。

小学生の沙希は先日、突然食物アレルギーを起こして大変な思いをしました。以来、好きだった甲殻類は食べられません。

同じく小学生、正路はますます顔も体もまろくなりました。

それぞれがそれぞれに、色々なことがあつた二期期。『みんなちがって、みんないい』子どもたちとクリスマスを迎えられることを嬉しく思います。

池田 祐子

子どもたちの季節 仙道家

クリスマスおめでとうございませう。今年の4月から光の子どもの家での生活が始まり、初めて尽くしの連続であわただしくすごして

よう。自分の心に残らないプレゼントなど、相手の心に届くはずはないのだから。

倉澤 智子

季節のおとずれ 竹花家

クリスマスおめでとうございませう。前号の4コマで紹介したカルタ大会に燃える女子、楓。カルタ大会の選手に選ばれて益々カルタ熱を高めています。

加須市郷土カルタは、加須の名所、名物を紹介するカルタです。楓はすっかり「あ」から「ん」まで全ての読み札を暗記しており、さしずめ加須の観光案内人化しております。ただ、知らない言葉が出てくる読み札は何のことやら分からない状態で、自分なりに解釈しているようです。トンチンカンな理解の仕方をしてる読み札に

関しては、教えたり辞書を一緒に引いたりしています。もうすぐ加須市全体の大会があり、カルタ練習の相手役は一層忙しくしております。

今年も12月25日にはイエスキリストの降誕劇「ページェント」を光の子どもの家の全員で行います。

いると、気づけばもうクリスマス。時の流れの速さにただただ驚いています。

仙道家の子どもたちは、10月ごろから早々とクリスマスの話題を出してきて、プレゼントに何をくれるのか、誰がサンタをやっているのか(夢のない話ですが...)などと口々に話しています。

太一と宗太郎は夕食後にページェントの一場面を練習し始め、太一は変声期を迎えたかすれた声で懸命に「どーなーたーじゃっ♪」と声を張り上げて熱演していました。そこに元演劇部の穴水指導員が、「主人は夜中に人が訪ねてきて迷惑そうにしているんだから、もっと迷惑そうに言うの。」と演技指導を入れると、太一と宗太郎がお互いに迷惑そうな感じの歌い方はどんな歌い方なのか歌いながら模索していました。

この練習が実を結び、本番で見事な歌声を披露してくれることを願っています。

遠藤 恵里香

高校3年生の晴一は今年のヨセフ役に選ばれることでしょう。去年から覚悟はしていたようですが、歌が苦手な晴一はヨセフはやるから歌とセリフは事前に録音して、本番はそれを流してくれないかと本気で言っています。練習を重ねて何とか乗り越えてほしいと思っ

鈴木 洋一

河のほとりで 倉澤家

今回、どんなことを書くのかとても悩んだのですが、いくら考えても浮かんで来ず……。そこで創刊当時から「光の子」を読み返してみました。そこには現在30歳を超えた卒園生たちとの生活の様子、その子どもたちの声がかれていて懐かしくなりました。

ある年のクリスマス号に子どもたちのクリスマスのコメントがありました。

「大人に叱られないように、良い子にしてください！」

「家族みんなどこかに行きたいです。」

「プレゼントはいらないので、父に来てほしいです。」

物でもお金でもない願い、だからこそとても重たい困難な切実な願いでした。最近の子どもたちはお金、スマートフォン、専用のテレビなどと現実的なことを言っています。本当の願いはそんなものではないのだろうかという心は心に留めておかなければと思いません。

昔は担当者からのプレゼントは手作りが原則でした。裁縫の苦手な私は、毎年とても苦労したのを

思い出します。

いつの頃からか、手作りが望ましいが、全て手作りは担当者の負担が大きいため、プレゼントの一部を手作りしたり、ラッピングを工夫したり、メッセージカードを添えようというように緩和されました。もちろん今でも子どもたち一人ひとりへのプレゼントには担当者が心と時間を費やして準備をしています。

ただ、私自身のことを考えると、プレゼントの準備にかかる時間は減って、去年のプレゼントが何だったのかを思い出すのに時間がかかってしまいます。

先日、中学生の章枝に、章枝の好きなキャラクターのマスケットをフェルトで作ってプレゼントしました。章枝とはコミュニケーションのとり方が難しく、何か方法はないだろうかと思っていたときに突然思いつき、一時間ほどで作った完成度の低い物でしたが、章枝はとても喜んでくれました。

その時に私は自分自身に「クリスマスプレゼントをもう一度見直そう：。」と言いつけました。

相変わらず裁縫は苦手ですが、どんなに小さくても何か一つ、自分の心に残るプレゼントを用意し



もう一度「真実告知」を考える 菅原 哲男

この初夏、赤ちゃんポスト「ウノトリのゆりかご」と通称していることで知られる慈恵病院の、蓮田健産科部長のお招きで熊本市を訪ねた。身に余る歓迎を受け、まだいも覚えがたが、何とか役割を果たしたのだろうかと思つてゐる。その折、赤ちゃんポストの実態のほんの少しを知ること出来た。諸事情によつて育てることの出来ない新生児を親が、匿名で養子に出すことがそのはたらしの基本である。わたしたちのはたらしと多くが重なるものであった。

二泊三日の滞在で、蓮田先生やそのスタッフとも親しくさせていただいたことは、私の尊厳財産ともなった。二日目の夕食の時、何のこともなかったのか失念したが、真実告知の話になった。蓮田先生は断じて真実を明かすことなど出来ないと言われたのである。その真実を明かすことが子ども(赤ちゃん)の利益になるどころか、つてもないマイナスしかもたらさないだろうと言われるのである。光の子どもの家の30年間のはたらしの中で、絶対受容、祝としての日常、出会いを喜ぶの終章として「真実告知」を実施し、社会的自立へと押し出していくという養育方針を確立してきた者として、確としたその物言いと、現場に密接に関わり続けておられる蓮田先生の言葉は衝撃だった。そしてそれは、わたしたちの関わりについて

でも丁寧に確認しないわけにはいかないものを感じ取ったのである。つまり、光の子どもの家における真実告知のあり方をもう一度精査し、理念や方法などにわたつて再確認しなければならぬことを迫られたのであった。

わたしたちは、真実告知は大きな外科手術とらえてきた。出来るだけ侵襲しないことばを選び、少人数で短い時間で、しかし確実に伝えなければならぬのである。それが子どもたちの過去と現在をつなげ、その上で自らの未来を望む地点に立つことが出来るように。それは、10歳前の比較的落ち着いた時期を選び、子どもが知りたいと表現したときと限定してきた。伝える内容は、すべてを一気に伝えるのではなく、その時にこれだけは伝えようという制限を設けても来た。そして、子どもの利益になるようにしなければならぬのである。真実告知後も、看護する思いで、呼べば応えられる位置に、特に担当者はいるといふ条件もつけて。

多くの場合、真実告知後の子どもたちは、ホッとしたりような気分になるのが常だった。しかし、それから約10年近く、自分が受けたような不適切な関わりを受ける子どもが少なくないことを知るのだが、それがなぜ自分でないならばならなかったのか、と言ふ不条理に気づき、悩み煩悶する時間を過ごす。

真実告知後の約10年ほどを過ぎ彼らは児童福祉法の限界である18歳に到達する。その年齢は進路に悩む時期でもある。真実告知は出自の確認であり、後ろを悩むことを意味する。

そして進路、すなわち未来を悩む時期に到達する。その進路が確定した後で「生まれてきてよかったか」という問いを、さりげなく投げかける。進路、未来に心身が向きを変え、不安と希望が混ざり混ざりになった時期は誰かの通過点である。そんな時のこの問いにはほぼ全員が「ウン」と応えるのである。これが児童養護施設の最低限しなければならぬ養育責任なのだ。自らの生を受け止めないで社会的自立：人生を築きむという可能性はないだろうか。もちろん、実家としての関わりもそれに続く。これがわたしたちの到達した真実告知の概略である。

蓮田先生の「真実は告知しない」ということについて考えてみよう。蓮田先生たちが出会う子どもたちは新生児である。だから真実告知は出来ないのだとも言える。しかし、真実告知が伝える内容を見ても、児童養護施設の赤ちゃんや子ども、児童養護施設の子どもの出自は比較的似ているだろう。その中には、真実告知がきわめて困難なものもある。望まない妊娠による出生、受け入れがたい出生もあるだろう。例えば強姦やインセスタブーによる妊娠、ひどい奇形で生まれてきた子どもなどなどである。自らの出自を知ることが誇らしいことや望ましいことだけではないだろう。

人が生まれてきて出会う運命や宿命と言われるようなことどもに、真に受け入れがたく、ない方がいいといいきれるものもあるのだから。数学に二乗してもマイナスになるものとして虚数というものがあると昔習った。

しかし、実人生に虚数のような経験や出会いなどがあるとは思えないのである。大きなマイナスに出会ったとして、それを乗り越えていく目標や訓練に変えていくこととするように、と願ってきた。人が生きることに虚しさを感じないで生きることが困難である。最も大きな困難を乗り越えた者が最も強くなるのでなければ、出会う困難は避けていく以外にない。その困難の質は虚数のようにしか表されぬものだとしてみよう：である。不条理な虚しさこそ乗り越えて生きていくものだろう。大きな不条理との闘いの原点として、自らの出自を認識し、いつの日にか到達するだろう、その人の生きる意味を願つてする真実告知は最小限していかないわけにはいかなることだろう。

マイナスの上にマイナスを重ねてきたような子どもたちである。それに重ねる真実告知にはどうしてもマイナスとしか思えない真実が多くある。だから慎重の上にも慎重でなければならぬことである。専門職と自負する人たちが、自らのキャリアを積むために、軽い気分で作つてみようなどとする、真実告知についての児童養護施設の子どもたちへの関わりは、ご遠慮願いたいものである。児童養護施設では、子どもたちの利益こそを求めたいから。

現場から

光の子らしく

クリスマスおめでとうございます。皆さま、お元気ですか。

朝晩の冷え込みが厳しくなり、あたたかいものが本当に恋しい季節になりました。

一部活で朝練習があるときには夜明け前に起き、夜明けと同時に登校しているような理奈にとっては、まさに試練の季節です。

ダイニングに来て、しばしヒーターの前で両手をあたたためながら、「あり得ないか、それを指導をやることなのか、それを指導される顧問の先生なのか、何に

岩崎まり子

対する不満で口を尖らせるのかよくわからないまま、私が、「そうだよ、本当、あり得ない。」などと同調すると、今度はピシャリと、

「やめて。そう言われると余計、嫌になる。」
「：：：そうか、難しいな：：：。」
また別のときに、辛そうに、「休みたい。」
「休んだら？一日くらい大丈夫だよ。」
「理奈が休んだら、部活は友達は

と、

「理奈が休んだら、部活は友達は



友達一人だけで後輩の面倒見ながらやらなきゃいけないから：：：。まり子さんだったら休める？」
「：：：」
「でしょ？理奈も行くよ。」
未だに寝ぼけたふりをしておぼさつてきたりする相変わらずな、2歳のときの笑顔そのままの理奈の姿の一方で、自分の置かれている状況の中、より良く生きようとして努力できるしつかりした人として成長している姿に驚きと喜びと、少しの寂しさを感じていきます。

高校入学前には、「理奈、友達できないかも：：：」と、かなり心配していたようでしたが、その時、私が思った通り、全く心配いらぬ高校生活を過ごしています。

ですから、多恵から、「学校やめる。親のところへ行く。」という話を聞いたときも、「理奈には考えられない。まず、高校辞めるっていうのがあり得ない。友達と別れること考えたら：：：ない。」
「：：：」
「：：：」
「：：：」

その言葉に改めて、多恵には、そういう関係がどこにもなかったんだ」と気付かされました。

目には見えないけれど、気持ちを通じ合っているとき、その積み重ねが関係をつくっていくのでしよう。人は皆、心の底ではそういう関係を希求しているものだと思います。だから、いつかはお互いわかり合えると信じていました。

けれど、そうでない人もいるのかもしれない、と感じることもあります。そのくらいところに触れることが、難しいな」と思う子どもが増えてきたように思います。

ただ、それも私の側の問題なのかも知れません。理不尽に思える暴言や依存に耐える術が、仕事だから」というのは、決して関係作りにはならないだろうということにはわかってはいるのですが、どうにもならず申し訳ないです。こんなに、こんな歳になつても我を捨てられない私でも、何か役に立てるなら使つて下さいと祈るような思いです。

でもその前に、どうしようもないこの我を深く埋めて下さいと願います。

どうぞ皆さま、豊かな時をお過ごし下さい。

光の子どもの家のホームページが完成しました

 www.hikarinokodomoie.com

光の子どもの家の紹介、お知らせなど様々なコンテンツがあり、「光の子」のアーカイブでは1号から現在まで全ての「光の子」をお読みいただけます。今後とも子どもたちとの歩みを見守っていただけますよう、お願いいたします。



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2014年7月~8月

2014年7月現在

- 幼児3名 小学生12名 中学生8名 高校生11名 計34名
- 9日 光の子どもの家後援会の皆さまによるがんばろう会前日から用意して下さった手打ちうどんを振る舞ってくださる 子どもたちがお世話になっている学校の先生方も来て下さった 感謝
- 11日 東大宮教会久保島泰牧師による夕礼拝 礼拝説教 感謝
- 12日 森公子さまのご招待でオーケストラのコンサートへ 子どもも大人も豊かな時間を過ごす 感謝
岡本有代さまによる生け花教室ボランティア
参加している子どもたちのオリジナリティ溢れる作品は応接室や各家に飾っている 感謝
- 13日 山田智さま裕子さまご夫妻がボランティアで子どもたちと遊んでくださる 子どもたちはビーズを使った製作や手芸などを教えてもらい楽しんでた 感謝
- 14日 聖学院大学の学生によるワーク 子どもたちと遊んでくださる 感謝
- 18日 夏休みオープニングパーティ 子どもたちが待ちに待った夏休み 高校卒業を迎える子どもたちにとっては大きな勝負に立ち向かう時間 それぞれの抱負を披露
- 22日 小学校高学年の子どもたちが北八ヶ岳の茶臼山登山へ全員無事登頂成功 体力自慢の子どもたちはもっと登れそうな勢い
- 26日 今川邦彦さまのご招待でオペラコンサートへ プロの音量に目が点な子どもも 貴重な体験 感謝
- 29日 小学校低学年の子どもたちが八ヶ岳の天狗岳登山へ

- 低学年にはかなり長いコースだが全員で登頂成功
谷本清光氏と池端寛氏をお招きしてBBQ
火の番は小3トリオがやってくれた
- 8月
- 4日 原田家が那須高原へ3泊4日の旅行
- 7日 竹花家と倉澤家が神奈川県の湯河原町へ3泊4日の旅行
- 11日 佐藤家が秋田へ4泊5日の旅行
- 13日 仙道家が西伊豆へ2泊3日の旅行
- 17日 東大宮教会教会学校の中高科夏期学校に参加 小川町の霜里農場で農業体験 猛暑の草取り作業でみんな汗だく 湧き水が冷たくて気持ちがいい
- 20日 開成高校の齋藤幸一先生と宮本一弘先生とフェリス女学院の宮本和歌子先生による出張実験教室が今年も行われる 実験の様子は日本化学会HPで紹介 感謝
- 22日 聖学院大学の学生9名によるワーク
除草奉仕や子どもたちとの楽しい遊び 感謝
- 26日 写真家福島さまによる全員のポートレート撮影 毎年の成長の記録はとて貴重なものとなっている 感謝
- 27日 今年のカリフォルニア大学からのインターンシップ生ジェリとサンドラの送別会 楽しかった夏の時間を思い出して涙する場面も これからの2人の活躍を祈る
- 29日 サヨナラ夏休みパーティ 夏休みを振り返ってこれから始まる2学期へと気持ちを切り替える 宿題が終わっていない子なんて居ないはず？
- ☆クリスマスおめでとうございます。豊かな祝福が皆さまにありますようにお祈りいたします (洋一)

////// ———— 反 射 光 ———— //////////////

クリスマスおめでとうございます。木枯らしが吹いて、光の子どもの家の中心にある大きな樺の木がたくさんの葉を落としています。暗くなる時間もすつかり早く、園庭には「暗いから早く帰ってきなさい」の声が毎日響いています▼11月3日には光の子どもの家創立30周年記念の「第30回感謝の集い」が行われ、日ごろからお世話になっている方々をお招きして感謝を伝えることができました。併せて光の子どもの家のホームページも開設しました。皆さまには子どもたちとのこれからの歩みも見守っていただけるよう切にお願いいたします▼二〇一四年も残すところわずか。それぞれの成長を見せてくれた子どもたちは、家庭で育つ子どもたちとは違う疑問や悩みを持ちながらも、年々たくましくなっていくます。避けることが出来ない疑問や悩みは、時にその答えをつかむために自分自身が傷つくことさえあります▼クリスマスを迎えるにあたり、子どもたちが荒波に揺り動かされ、沈んでしまうようなことがあっても、何度でも浮上できるような子どもたちとつながっていきたくと祈り、願います。今後ともよろしく
お願いいたします。

(洋一)